

高山の文化

No.172 2016.1.1 Culture in Takayama

一般社団法人 高山市文化協会 発行

高山市昭和町1丁目 高山市民文化会館内 Tel.34-6550 Fax.34-6877

メールアドレス●mail@takayama-bunka.org
ホームページアドレス●http://www.takayama-bunka.org
(文化会館の催し物案内はこのホームページをご覧ください。)



「申年あれこれ」
NHK高山支局
中林 利数

チンパンジーが酒を飲むということが去年学会で発表されて、英国王立協会の科学誌に載ったそうだ。

アフリカのギニアの森では、住民が椰子の木の樹液を集めて発酵させ、アルコール度数が三〇六〇の酒を造って飲んでいる。ところが野生のチンパンジーが、木の上で作られているこの酒を、木の葉ですくって飲んでいるところをビデオ撮影された。酔ったかどうかは分からないが、体の動きがゆったりしてきたそう



編集室でぬいぐるみと

した写真やビデオは初めてという。しかし私は、それ以前に人間以外の動物が自発的に酒を飲んで寝込んでしまった写真を見たことがある。



当時撮影された写真

ある。辞書には、馬が奔走し猿がわめき騒ぐように、煩惱は制しがたいとある。山の中で聞く猿の鳴き声は、何とも悲しく響くとか。馬が強い意志で走り抜く鼻息の荒さとは、また違うようだ、猿の声は。愚考するに、猿は強い意志や理性よりも、もろい感情の側に立つことが多いようだ。人間の好みで勝手に立たせられているのだと、猿は言いたいかも知れないが。

「猿が酒を飲むのは当り前よ。あんなだけ赤い顔をしとりや、飲むに決まっとる」と言った人がいるが、「そしや猿は尻まで酔うのか？」ってことになる。

私は午年だが、本当は申年なのではないかと常々思っている。強い馬の意志はなくて、日々煩惱を制し難い猿の心情に近い。特に酒を飲むと、心猿踊り狂い始め、ほとんど理性が消えて、いらんことをいつまでもしゃべっている。そして反省と悔恨の朝が来る。今年も高山に観光客がドツと来て、赤いサルボボなどもドツと売れますように。そしてサルボボのような赤ちゃんが沢山産まれてくれますように。少子高齢化はゆゆしき問題です。どちら様もよいお正月を。



「連獅子」村山群鳳・遠藤秀鳳作 520cm×520cm
昭和56年高山市婦人連絡協議会寄贈
高山市民文化会館・市民ロビー壁面上部に展示

文化功労者を顕彰

永年に亘り、郷土の文化振興とその発展に寄与された方を顕彰します。表彰式は、1月1日開催の新年市民互礼会で行います。(敬称略・順不同)

文化功労者



老田 清子 (上一之町)

短歌

永年に亘り、短歌を通じて高山市の文化振興に寄与され、後進の指導に貢献された功績。



桐谷 忠夫 (七日町1)

郷土史

永年に亘り、郷土史の研究を行い、高山市の文化振興に寄与され、生涯学習者の支援に貢献された功績。



益田 智子 (片野町5)

日本画

永年に亘り、日本画を通じて高山市の文化振興に寄与され、後進の指導に貢献された功績。



若柳 雅華 (岡本町1)

日本舞踊

永年に亘り、日本舞踊を通じて高山市の文化振興に寄与され、後進の指導に貢献された功績。



八野 明 (片野町1)

宮大工

永年に亘り、伝統建築の修復を通じて高山市の文化財保護に努め、後進の育成に貢献された功績。

新年のご挨拶
「文化」と「平和」



(一社) 高山市文化協会
会長 小林 浩

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、ご健勝で新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年中は、(一社) 高山市文化協会の活動に格別のご理解とご協力を賜り、計画しました事業も滞りなく進めることができました。心から感謝申し上げます。

昨年は、「平和」について大きく話題になった年でした。戦後七十年を振り返り、過去の悲惨な記憶がマスコミ等により知らされ、改めて「平和」の尊さを感じました。また、先の国会で可決された安全保障関連法案等は、殊の外「平和」について考えさせられる一件でもあったように感じています。

一方国外では、過激派組織によるテロ行為が全世界を恐怖に陥れ、いつになったら「平和」が訪れるのか、混沌とした状態が続いています。言うまでもありませんが、「平和」と「文化」は密接な繋がりをもち、学術、文学、音楽、芸能等の文化活動は、「平和」な社会基盤の上で活発に展開されるものであって、争いの渦中では「文化」は破壊されるばかりで決して育まれません。「文化」は、人々の心を豊かにして、生活に潤いをもたらし、「平和」な社会へと導きます。高山市は、九月二十一日を

「高山市平和の日」と定められました。私たちはこの運動を通じて、地方にあっても活発な文化活動が平和に繋がるといふ信念を持って、市民の皆様と共に活動を進めてまいりたいと考えています。その文化活動の拠点となる施設が「高山市民文化会館・高山市公民館」ですが、築三十三年が経過し、最近では機械設備等の老朽化が目立ってきました。また今後の高山駅西地区の開発とともに、ますます多様化する文化活動に、現状での対応は困難となりつつあります。

本年も創意と工夫を重ね、地域の「文化」の発展と向上を目指し、更に「平和」に繋がる文化活動の推進に努めますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、皆様のご健康とご活躍を祈念して、新年のご挨拶といたします。

高山市文化芸術鑑賞事業
流れる星 林家 久蔵
爆笑寄席!
完全御礼
平成28年 1/24日
午後2時開演 / 午後1時30分開場
高山市民文化会館 小ホール 高山市昭和町1丁目188-1
主催 高山市・(一社)高山市文化協会

The Heartful movie 飛騨高山 From HIDA TAKAYAMA
ここが、この場所。
きみとみる風景
平成28年 2/14日
●今西監督の挨拶と主題歌演奏が予定されています。(各回)
出演 松田まどか 中田裕一 森林水理奈 天野雄大 小森星空 東東城 谷口穂乃佳 西本音々 谷口明愛 監督・脚本 今西祐子
平成28年 ①午前10時～(日本語字幕) ②午後2時～(英語字幕) 開場は各回30分前
高山市民文化会館 小ホール 高山市昭和町1丁目188-1
入場無料・整理券配布中
主催 (一社)高山市文化協会

高山の文化を高めた人々

64
史跡の保存と整備に尽力した
松葉 惣四郎

田中 彰

松葉惣四郎は上枝村の助役、村会議員を努め、そのかたわら、赤保木地区の史跡保存を推進した功労者です。

惣四郎は、明治十四年十二月十八日、赤保木町の松葉家の長子として生まれました。長じては代々の家業である畑作と稲作を営み、昔から土地



赤保木史跡公園にて

の産物として有名な赤保木の「ネブカ（ねぎ）」を作り、朝市にも出していました。一時期、家の裏に製紙工場を立てていたこともあったといま

二十二歳の頃、日露戦争に

応召されて二〇三高地（中国大連市）で戦い、ふくらはぎの貫通銃創で負傷して前線から離れました。その後、惣四郎のいた部隊は全滅しています。

惣四郎の孫である清見町の松葉晴彦さん、赤保木町に居住する垣内壽美子さんは、惣四郎のことを温厚な人であったと語ります。大きい声を張り上げたことなどなく、いつも机に向かって本を読んだり物を書いていたといします。

惣四郎は昭和二十一年十二月に赤保木史跡保存会を結成し、成田正利の墓や、赤保木の国分寺瓦窯跡の保存、近隣の遺跡調査に励みました。そんな中で昭和二十九年、赤保木集落の後背、熊野神社裏で客土採掘中に二基の変わった

石組炉が発見されます。ひとつは舟の形をしていて、地元で大きな反響を呼びました。大騒ぎになりました。研究者を呼んで調査を実施しました。そのときに撮影した写真が残っています。

残存状況も良く、舟の形をしていたことから、昭和三十一年に岐阜県の文化財に指定されました。指定名称は

「赤保木石器時代火炉」で、現在の考古学の名称定義とは趣が違っていますが、当時における埋蔵文化財の保存処置の先鞭として評価がされています。

また惣四郎は赤保木史跡保存会として文化財の指定申請を積極的に行なっています。現在、赤保木町地内には赤保木瓦窯跡（国指定）、赤保木石器時代の火炉、赤保木古墳群（県指定）、成田正利墓、熊野神社本殿、熊野神社の大杉（市指定）があります。これらの建造物や史跡をめぐるコースが出来ており、学校、保育園などの学習の場として活用されています。



火炉にて前列中央の後ろが松葉惣四郎

機関紙「飛騨春秋」には昭和三十四年から三十八年にかけて十一編投稿しています。その中で、第四年二号「御墓山とその山麓」では御墓山から見る早朝の雲海のすばらしい景観を紹介し、第四年十号「飛騨国分寺瓦の系統」では昭和二十二年に発掘調査された瓦窯出土の国分寺瓦の文様について記しています。第六年九号「江馬家の子孫」では神岡の麻生野にあった洞城主麻生野氏の

子孫が、落ち延びた後に出世して大成院家を起こし、国分寺住職、新宮神社の神官になつていったことが紹介されています。

松葉惣四郎という人は、高山市における史跡保存のさきがけとなった人で、赤保木史跡保存会運営の「赤保木郷土館」も建設して一帯を赤保木史跡公園として整備をしまし

た。今、惣四郎らの立ち上げた赤保木史跡公園は、高山市が管理する「風土記の丘史跡公園」として引き継がれているのです。

〆履歴〆 大正六年十一月十四日上枝村助役就任、同年十二月二十五日退職、また昭和十六年から二十年までは上枝村村会議員を四年努めた。昭和四十七年一月一日九十一歳で逝去。

（一社）高山市文化協会 平成27年の活動	5月28日(木) 高山市文化芸術鑑賞事業 「May J. Spring Tour 2015」 (高山市民文化会館大ホール)	10月3日(土)・4日(日) 第23回近代文学館企画展 「篠原無然～飛騨青年の叫び～」 (高山市図書館「煥章館」)
1月1日(木) 新年市民互礼会及び 第38回飛騨文芸祭表彰式 (高山グリーンホテル)	5月30日(土) 高山市文化芸術鑑賞事業 「舞楽詩 風の又三郎」 (久々野公民館ホール)	10月3日(土) 道伝えの日・お月見歌会 (高山市文化伝承館)
1月16日(金)～18日(日) 新春飾り物展 ～千支「未」歌会始お題「本」～ (高山市民文化会館 3階講堂他)	6月6日(土)・7日(日) 高山文化フォーラム2015 (高山市民文化会館)	10月17日(土)・18日(日) 第5回日本板画院東海支部高山展 (高山市民文化会館 4階大会議室)
1月20日(火) 公立文化施設協議会岐阜県支部講演 「新しい広場をつくる」講師 平田オリザ氏 (高山市民文化会館)	6月25日(木) 高山市文化芸術鑑賞事業 「桂文枝・月亭遊方 爆笑寄席」 (丹生川文化ホール)	10月31日(土) 高山市文化芸術鑑賞事業 「ミゲル・アンヘルフラメンコ舞踏団 アンダルシア情熱の瞬間」(こくふ交流センターさくらホール)
2月20日(金)～22日(日) 「まちの博物館所蔵品展」むかしの新聞展 (高山市民文化会館 3階講堂)	6月28日(日) 市民歴史散歩 「一之宮・山下城」	11月3日(火・祝) 高山市文化芸術鑑賞事業 「オーケストラ・アンサンブル金沢 山下一史 & 仲道郁代」(高山市民文化会館大ホール)
2月26日(木) 高山市文化芸術鑑賞事業 「鶴光・文治・サンドウィッチマン 爆笑寄席」 (丹生川文化ホール)	7月5日(日) 高山市文化芸術鑑賞事業 「七夏の雅楽」 (こくふ交流センターさくらホール)	11月3日(火・祝) 第39回飛騨文芸祭作品集「飛騨文藝」発行
3月14日(土)・15日(日) 第22回近代文学館企画展 「瀧井孝作 没後三十年展 第三部」 (高山市図書館「煥章館」)	7月23日(木) 高山市文化芸術鑑賞事業 「松竹大歌舞伎」 (高山市民文化会館大ホール)	11月23日(月・祝) ワンコイン・シアター「アニー」 (高山市民文化会館小ホール)
3月21日(土・祝) 近代文学館講演会 「瀧井孝作の生涯と文学の軌跡」 講師 桐山悟朗氏 (高山市図書館「煥章館」)	8月20日(木) 文学散歩道掃苔 (飛騨の里下)	11月26日(木)～27日(金) 文化協会会員研修旅行 「世界遺産 富岡製糸場を訪ねて」
3月31日(火) 平成26年度近代文学館調査報告書発行 「瀧井孝作収蔵資料年代別目録」	8月23日(日) 高山市文化芸術鑑賞事業 「たかやま歌声広場」 (高山市民文化会館小ホール)	11月28日(土) 道伝えの日・芭蕉忌句会 (高山市文化伝承館)
4月25日(土)・26日(日) 道伝えの日茶会・ 飾り物展入賞作品展 (高山市文化伝承館)	8月28日(金) 市長と語る会 (高山市役所)	12月10日(木) 高山市文化芸術鑑賞事業 「グローリー・ゴスペル・シンガーズ」 (高山市民文化会館大ホール)

**（一社）高山市文化協会
特別上映会のお知らせ**

合併十周年記念映画「君と見る風景」の特別上映会を行います。入場は無料で、どなたでもご覧いただけます。ぜひご来場ください。

◇日時 二月十四日（日）
①午前十時～②午後二時（各回三十分前開場）

◇上映時間 六十三分

◇場所 文化会館・小ホール

◇入場無料（整理券配布中）

※チケット完売のお知らせ
一月二十四日に開催する「流れ星&林家木久蔵 爆笑寄席」のチケットは、完売しました。

文化協会後援催事案内

JOCジュニアオリジナルコンサート（コサカ楽器）

◇日時 一月十七日（日）午後一時

◇会場 文化会館・小ホール

◇入場無料

平成28年

新春飾り物展

～千支「申」と歌会始御題「人」～

■日時／ **1月15日金～17日日**
午前9時～午後5時（最終日午後4時まで）

■会場／ **高山市民文化会館 3階**
講堂（一般の部）
美術工芸室（高校生の部）

主催：高山市／（一社）高山市文化協会
共催：高山飾物同好会

「午」羊群帰還

「本」写本

※写真は昨年上天位作品

文化協会会員の平成二十七年入賞・受賞
(敬称略・順不同)

大門 孝藏(新宮町)
木版画大賞展(6年連続)
流町の棚田をモチーフとした「収穫～稲架かた田の夕暮れ」で受賞。
木版塾 **老田 正夫**(上岡本町8)
板院展入選
大門孝藏氏主宰の「木版塾」塾生。初入選。

木版塾 **大下 正喜**(中山町)
板院展入選(2回目)
同「木版塾」塾生。二度目の受賞。

木版塾 **畑川 清二**(神明町1)
板院展入選(2回目)
同「木版塾」塾生。二度目にして二点が受賞。

瀬川 賢一(さわらび会)
改組新日展入選(書・かな)(10回目)
万葉集の和歌2首を題材とした「秋」で受賞。

「風呂（目）」

若い建築家に、家について聞いたことがある。

昔は家の中心は大黒柱で、神棚や仏壇を置く位置を決め、そこから座敷や台所や寢室が決まり、囲炉裏で家長の座る横座も定められていた。そこには物理的な空間の配置もさることながら、精神的な心の拠り所の位置関係もあった。

ところが今では、全ての家の機能と配置は、エレクトロニクスが中心になる。TV、インターネット、電話、FAX等々の便利さへの配慮が大切になっていると。

背景には、戦前と戦後の民

法の違いもあろう。つまり「家」を中心の家族から「個人一人一人」の時代への変化。家長とその妻、長男とその妻が戸籍上の主で、その他は「奴婢」と書いてあった白川村の合掌家族の明治の名簿を見て驚いた。白川村だけではない。日本中がほぼ同じ思想だったのだろう。

長男万歳の時代は終わったけど、どこかに我々はその名残のしつ尾を持っている。

時世時節は変わるとままよ。変らぬ人の心は、今日の感謝と明日への祈りを込めて、また今年も初詣に向う。さて、今年は何を祈ろうか。

〈ガンモン毛筆〉